

■進捗状況

中項目 1 - 3

公開日：2026年6月

分野	項目名
教育	世界市民教育のネットワーク形成
内容	
世界市民教育に関する本学の実践事例を発信し、世界市民教育の実践機関とのネットワーク化を進める。また、世界市民教育や価値創造教育に関するシンポジウムを4年ごとに開催し、国際的な研究ネットワークの構築を図る。	
	取組状況
2021年度	・GCPの学びの成果の体系的整理と可視化を行うとともに、理念や特徴の英文化作業に着手し、ホームページ上で公開した。 ・新型コロナウイルスの蔓延のため、「第1回 世界市民教育シンポジウム」は2021年の予定から2022年開催に延期となった。基調講演者の選定をはじめ、開催大綱について検討を重ねた。
2022年度	・GCPが交流を進めてきた大学を含め、世界市民教育を推進している関係機関の選定を行い、GCPの活動や成果を発信した。また、2021年度にGCP研究フォーラムを共催できたタイのタマサート大学、また本学交流校であるチュロンコン大学等を訪問し、協議を開始した。あわせて、海外研修を実施しているフィリピンのキャピトル大学とも合同研修プログラムの協議を行った。その他、オンラインでのGCP研究フォーラムを開催した。 ・「第1回 世界市民教育シンポジウム」を開催し、130名が参加した。6名の若手研究者ポスターセッション、9分科会を開催、33本論文が発表された。また、前日に「創価教育機関交流会」を開催し、創価大学7名、アメリカ創価大学3名、創価学園8名、ブラジル創価学園14名がオンラインで参加した。
2023年度	・世界市民教育に関する本学の実践的事例の発信とネットワークの形成に関する取り組みとして、2023年3月にタマサート大学とフィリピンの社会問題に関するオンラインワークショップを開催した。この取り組みを踏まえて世界市民教育のネットワーク化に向けて、GCPの研修先であるキャピトル大学とのカリキュラム共同開発、タマサート大学とのオンラインワークショップに取り組んだ。 ・創立者の思想研究に関するシンポジウムとして、「世界市民教育シンポジウム」を2022年10月に開催した。発表された論文は、基調講演とあわせて33本に上った。本シンポジウムで報告された論文のうち、基調報告、および主な論文は、本学が世界市民教育実践・研究の世界的な中心拠点の一つとなり、大学のブランド力を向上させることを目指した情報発信として、『創価教育』第16号に掲載した。また、2024年度に開催する「周恩来・池田大作会見50周年記念シンポジウム」の準備委員会を設置し、準備を開始した。

2024年度	・2026年度に開催予定の本学主催の世界市民教育シンポジウムでセッションをもてるよう準備を開始した。その前段階として、本年度はポストSGUキックオフミーティングにて、GCPの取り組みと成果の発表を実施した。 ・2024年度、周恩来・池田大作会見50周年記念シンポジウムを2日間にわたって本学で開催した。中国、アメリカ、韓国、フィリピン、スペイン、イタリア、日本の7か国・45大学・機関の研究者138本が集い、6本の基調講演に加え、16の分科会にて51本の論文が発表できた。
2025年度	・2026年度に開催予定の「第2回世界市民教育シンポジウム」の論文募集（Call for papers）を開始した。また、世界各国の研究機関との交流の拡大に取り組むとともに、世界市民教育に関する国際共同研究を推進した。

事業計画 1－3－7

達成度 A・・・達成 B・・・一部達成 C・・・未達成

計画名	世界市民教育に関する本学の実践事例の発信とネットワークの形成					
実行開始年度	2021年度					
年度達成度	2021年度	A	2025年度	B	2028年度	
	2022年度	A	2026年度		2029年度	
	2023年度	A	2027年度		2030年度	
	2024年度	A	最終目標からの達成度		B	
2026年度以降	2026年度以降、「1-3-8 世界市民教育に関するシンポジウムの開催」に取り組みを「統合」する。					

事業計画 1－3－8

計画名	「世界市民教育に関するシンポジウム」の開催					
実行開始年度	2021年度					
年度達成度	2021年度	A	2025年度	A	2028年度	
	2022年度	A	2026年度		2029年度	
	2023年度	A	2027年度		2030年度	
	2024年度	A	最終目標からの達成度		B	
2026年度以降	取り組みを「継続」する。					